

今後の県立高校の在り方検討委員会地域公聴会（浜田会場） 議事録

日 時 平成28年 9 月13日（火）

10：00～12：00

場 所 県浜田合同庁舎大会議室

会長あいさつ

皆さん、おはようございます。

本日、こうして地域公聴会を開催させていただきましたところ、久保田市長様初め、4人の意見陳述者の方々、それからまた、多くの傍聴の方々にお集まりいただきました。委員を代表して心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

私どもの委員会は、この4月に県の教育長より委嘱された委員会でございますが、平成31年度からの10年間の県内の公立高校の在り方について検討するということが委嘱の内容でございました。平成31年度からの10年間と申しますと少し先の話のような気がしますが、実はよく考えてみると、現在の中学校1年生から保育所、幼稚園の4歳児までということで、彼らはこうして毎日成長しながら生きている、その子たちがまさに高校に入る、その高校の在り方をどうするかということでございますので、人数はある意味では確定している、そういう話でございます。ちょうどその時代に、今、議論されている新しい学習指導要領がスタートすることになっています。平成32年度、東京オリンピックの年から小学校では完全実施になりますし、それを追いかけるように中学、高校でも新しい学習指導要領が展開していく時期でございます。

学習内容そのものは余り大きく変わらないのではないかとされていますが、大きく変わるののは学習の方法（教え方・学び方）であります。その中で、子供たちが今よりも、主体的・能動的に学習をしていく、そういう教育になっていかないと、これから先の正解が見えない時代に生きていく力は身につけることができないであろうと考えられています。私どもの委員会でも、主体的・能動的な学習、そのためには自分の興味や個性あるいはその多様性、そうしたものを生かした教育をするにはどうしたらいいのだろうかということが今後の議論の一つの柱になっております。

2番目には、今後の学校というのは地域との結びつきなしには考えられないので、地域の力やニーズあるいは資源をどのように教育の中に取り込んだらいいのだろうか、これが2番目の視点でございます。ただ、このときに非常に難しいのは、この地域という言葉が今こ

のグローバルな社会の中で何を意味するのかということが少し問われ始めていて、今後、私たちがイメージする地域というものが何であるべきかということも一つの議論の柱になっていくでしょう。

3番目には、子供の数が大げさな言い方ですが少し音を立てて減っていく傾向が止まりません。これは頑張って踏みとどまらなければならないのですが、それでも子供の数が減っていく。それから財政的な制限もある。その中で、どういう場所に、どういう教育環境をつかっていったら県内の高校教育がより良くなるのか、そういった視点も持たなければならない。これが3番目の視点でございます。

こういったことを検討することが私どもの委員会の使命ですが、現行のプランの中に高校の設置に関する見直しを求める一定程度の基準というのがございまして、その基準に合致する高校がこの浜田、江津地域にたまたまあるということで、この委員会がその地域の現状についてお話を伺う機会が必要だということから、本日の公聴会になったところでございます。

きょう、お手元に次第をお配りしていると思いますが、その一番裏をご覧くださいますと、そこに江津市エリア、浜田市エリアにおける県立高校の可能性の検討についてということで、これは、県の教育委員会のほうから私どもの委員会にどういう視点で検討をするべきなのかということについて諮問をいただいた中身でございます。冒頭に書いてございますように、単なる数合わせという、生徒が減ってきたからこことここを一緒にしよう、そういった議論を求めているのではないということは明確に書かれているところでございます。

生徒数の動向だけではなくて、2番目に書かれていることは、石見地域でこういった社会・経済環境の実情や課題があるのかということ踏まえて、県立高校としてどのような教育を提供すべきか議論をしてほしいということが私どもの委員会に言われていることでございます。

3番目でございますが、江津市エリア、浜田市エリアにおける県立高校の可能性について、例えば工業教育、商業教育、あるいは普通科教育の中心をどこに置くのかというようなことについても検討してほしいということがございます。

これについては地域の意見をまずしっかりと聴取してということも書かれているところでございます。私どもの委員会は、先ほど申し上げたように、平成31年度から10年間の高校全体のことを議論する委員会ですので、必ずしも石見地区のことだけを議論する委員会ではございませんので、12人のメンバーがいますが、その中で、石見地域ご出身の方は4名しかおられません。そういう意味では、そのことだけで議論することは不十分でございますので、本日、こ

うした浜田市の皆さんのご意見を伺う機会を設けて、地元にどのようなお考えがあるのか、どのようなニーズがあるのか、そのことを踏まえながら議論をさせていただきたいと思ひまして、本日の公聴会となった次第でございます。

少し長くなりましたが、委員会のミッションと、それから本日の会の趣旨について簡単にご説明を申し上げて、きょうの委員会を始めたいと思ひます。限られた時間ですが、忌憚のない様々なご意見を伺いたいと思ひています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

浜田市要望書の説明

説明者 浜田市長 久保田章市氏

おはようございます。浜田市長の久保田でございます。

それでは、要望書に関連しまして、私から、最初にご説明申し上げたいと思ひます。

お手元に昨年11月に浜田市として取りまとめました市内県立高校のあり方についての要望書をお配りしていると思ひます。これに関連しまして、市長としての基本的な考え方についてお話を申し上げたいと思ひます。

最初に、浜田市内の高校、生徒数が減少しておりまして、定員割れという状況でございます。これについての考え方について述べさせていただきます。

市内3校は生徒数が減って、学級数も減少しております。現在、大規模校と言われております浜田高校でも6クラスになっております。それから、浜田商業高校、浜田水産高校は2クラスということでございます。それでも、近年、定員割れが続いております。細かく申し上げますと、商業高校についてはちょうど3年前に学級数が2クラスになりまして、それまで3クラスのときには定員割れだったのですが、3年前に3クラスを2クラスにした、その年は定員割れだったのですが、直近の2年間は80人の定員、ほぼほぼ満たしている状況でございます。しかしながら、浜田高等学校、それから浜田水産高等学校については、近年、ずっと定員割れの状況が続いているということでございます。

この3校の生徒数が減少している、一番大きな理由は、やはり当地域の少子化の影響といひましょいか、子供の数が減っているということが一番大きいと考えております。しかしながら、それだけではなくて、もっと子供たちが行きたくなるような高校側の魅力化の努力がやや足りないのではないかという気もいたしております。ことし3月の市内中学校卒業生数は459人と把握しておりますけれども、この卒業生459人に対して、この4月に市内の3高校に進学した市内の中学生が273人です。459人の卒業生に対して、市内の3校に進学したのが

273人。そうしますと、残り約180人、中学卒業生の約4割に相当する180人は、定時制高校とか、あるいは通信制に進学した者もおりますけれども、その多くは市外の高校に行ったものと思われます。こう考えますと、もちろん少子化の影響が大きくて生徒数が減っているということではあるのですが、もっと子供たちが行きたくなるような魅力化の努力、これが必要ではないかと考えているところでございます。

昨年11月に、あり方検討会の要望をまとめました。平成26年の11月に、市内に浜田市県立高校のあり方検討会を立ち上げまして、ご提言をいただいたところでございます。このご提言の中にも、魅力化について努めるべきだというご意見が入っております。この市内のあり方検討会の提言の中では、要約しますと、再編につきましては、3校存続と、それから将来的には再編やむなしという2つの意見が並立されておりました。それに加えて、2つ目の点でございますが、もっと3校の魅力化を進めるべきだという、そういうご意見がございました。

ここで、市内の3校につきましての私どもの認識について申し上げさせていただきます。市内には3校ありますが、その中の浜田高校でございます。ご案内のように、120年以上の伝統のある県西部を代表する高校でございます。この高校では、難関大学を含む国公立大学あるいは医学部への進学を目指す進学校としての役割がでございます。それから、浜田商業高校でございますが、職業人材を育成して、地元就職にご貢献いただいております。現在も卒業生の約半分は地元の企業に就職しておりますし、残りの半分は進学しますが、保育学校に行くとか、あるいは看護学校に行くとか、資格を取って、行く行くは地元に戻ってくるという卒業生もございまして、同じ進学の中身でもやはり地元で活躍するための進学だということで、浜田商業高等学校は、地元のために働きたい、地元で暮らしたい、そういう生徒が多くいる学校と捉まえております。それから、浜田水産高校でございますが、申し上げるまでもなく、この浜田市、水産都市であります。卒業後は水産業であるとか、水産加工業に勤めたいという、この分野での人材育成の役割を担っております。地元就職する子供たちがたくさんいる学校でございます。このように、3つの高校それぞれ特色もありますし、役割も違っていると認識をいたしております。

こういった中で、将来についてどのように考えるかということでございますが、私は、この3つの高校それぞれに当地域においての役割がございまして、その役割をしっかりと果たしていただく、これが一番大切なこと。浜田を中心とした島根県西部が発展するためにはそれぞれの高校が役割を果たしていく、今後も、この役割を果たしていただくためには、でき

るならば3校存続、これが一番望ましいと考えております。しかしながら、一方では、今後、さらに少子化が進展するということであれば、いつかはわかりませんが、いつかの時点でこの3校を2校への再編ということもやむを得ないことかという気もいたしております。ですが、願わくは、この3校、それぞれ特色があるわけですから、一番望ましい姿は3校存続ということだろうと思っております。こうした前提の中で、要望を申し上げたいことについても次に触れさせていただきたいと思います。

要望書の中にも書いてございますが、その再編の有無にかかわらず、やはり市内の3校の魅力化について取り組んでいただきたい。これが一番私どもは大切なことだろうと思っております。要望書の中では、それぞれの学校についての魅力化の例について述べさせていただいております。

浜田高校につきましては、ぜひとも中高一貫校の設置をご検討いただきたいと申し上げております。

それから、浜田商業高校につきましては、情報コンテンツ分野など、時代に即した学科の新設、改編をお願いしたいということであります。今、浜田商業高校は、商業科、それから情報処理科がありますが、情報処理というと、今、どんな学校でもコンピューターを扱う時代になっておりますので、単に情報処理だけではなく、もう一步、先を行ったというか、子供たちに魅力ある情報処理、例えば情報コンテンツ、もっと具体的に申し上げますと、コンピューターを使ってアニメを作成するとか、あるいはグラフィックデザインをするとか、つまり、コンピューターを使うが、もっと子供たちが、その時代に合ったようなことを教えられる学校になれば、子供たちも学びたくなるのではないかと考えてございます。これは一例でございまして、分野は全く違いますが、全国では商業高校に福祉系の学科をつくり始めているという事例もたくさんございます。いずれにしても、浜田商業高校というのは地元で働いてくださる子供たちを育てる学校と考えれば、今のような商業科、情報処理科、これだけではなくて、その中身についても、あるいは分野についてももう少し広げて考えていけば、子供たちもより入りたくなる。また、それが地元にも貢献していただくことになると思っております。

それから、浜田水産高校でございまして。水産都市浜田の人材を育てるという学校で、大変意義がある学校でございまして。今、県外からの入学者が増えております。この水産高校につきましては、県外生の受け入れ、この体制も、寮の問題とか、いろいろございまして、こういったことについてもご支援いただきたい。日本は水産とともに発展したまちでありまして、

全国でも水産高校はそんなに数があるわけではございませんので、この水産という、これから先、今までは水産業というのはちょっと厳しい時代が続いておりましたけれども、世界的に食糧不足だとか、いろんなことが言われる中で、また、海に囲まれた日本でございます。この水産について、もっとほかの地域から子供たちが入ってくるような、こういったことも考えていくべきではないかと思っているところでございます。

浜田高校のところで中高一貫校と申し上げましたので、もう少し詳しくお話を申し上げたいと思います。

中高一貫校、皆さん、ご案内かと思いますが、具体的には浜田高等学校に県立の併設中学を設置していただきたい、そして、6年間の一貫教育をしていただきたいという内容でございます。実は、先月、8月20日に浜田で中高一貫シンポジウムを開催いたしました。そのときのお話では、国は中高一貫校、全国500校計画をつくっていて、それに向かって推進をしている。現在、498校の中高一貫校ができています。一番多いのは私立ですが、公立高校についてもどんどん広がっておりまして、全国に公立の中高一貫校、これが180校に増えています。ますます増えている状況でありました。この公立の中高一貫校がないのが島根県を初めとする4県だけであるというお話でございました。中高一貫校では、生徒の満足度も高く、学力も向上しているということでございました。恐らく島根県においても、早晚、この中高一貫校設置の動きがあるだろうと考えております。

浜田市は、かつては教育都市でございました。明治13年、島根県で2番目となります浜田中学校が設立されました。最初にできたのは松江の松江中学、島根県で2番目に浜田中学が設置されました。その後、市内にはいわゆる女子師範学校とか高等女学校とか、こういった学校がたくさん設置されましたが、戦後、昭和24年でございますが、統合されてできたのが今の浜田高校でございます。そういう意味では、浜田高校は県西部の教育の中核校である位置づけであった高校でございます。この高校が、大変残念ながら、この数年、ずっと定員割れが続いているということは、この地域にとりましても大変寂しい思いをしているところでございます。

浜田高校の魅力化についてどういう方法があるのだろうか、私どももいろいろ考えました。いろいろな研究も実はこの2年ぐらいさせていただきました。その結果たどり着いた一つの結論が、浜田高校に中高一貫校を設置することではないかと思っているところでございます。ぜひともこの中高一貫校、今後、市民の皆さんの機運を盛り上げて、また、県への要望等もさせていただくことも考えておりますが、ぜひ浜田高校についてもそういった魅力あ

る取り組みをしていただければと思っているところでございます。

なお、将来的にはどこかのタイミングで、場合によっては再編やむなしというお話を申し上げました。人口減少という大きな流れの中で、なかなかこれを食いとめることができないとすれば、どこかの段階で高校の再編といいましょうか、具体的に3校を2校にというような動きが出てくるかもしれません。仮に2校を1校にしたときには、どちらかの高校の特色、役割が薄れる心配があります。これについて、どの高校とは申し上げられません、わかりませんが、役割がそれぞれあるものですから、その特色、役割が生かせるような仕組みを考えていただきたい。具体的に言いますと、副校長を設置して、カリキュラムは別体系で、あるいは運用を別体系にするとか、このようなことに取り組んでいただきたいと思います。

以上、いろいろ申し上げました。再編につきましては県のご意向もあろうかと思いますが、重ねて申し上げたいのは次の2点でございます。

1つは、市内の3校はそれぞれ皆、地域にとって必要な学校であります。それぞれ役割があります。したがって、形がどうなるかはともかく、それは置いておいても、それぞれの高校の役割が果たせるような仕組みはぜひお願いしたいというのが1点目。

2つ目が、それぞれの高校の魅力化に取り組んでいただきたいと思います。今のまま行けば、何もしなければ、仮に再編をしたとしても、いつかまた再々編というようなことにもなりかねないのではないかと思います。ぜひとも子供たちが入りたくなるような、そういう魅力ある高校にしていきたいと思います。以上、よろしくお願い申し上げます。

<質疑>

○委員

浜田高校の中高一貫校の話でございますが、県立の中学校を設置した場合に、既存の市立の中学校との関係性についてはどのようにお考えでしょうか。

○久保田市長

市内の中学校の卒業生が約450人おりまして、中高一貫校、私どもが勝手に想像している県立の中高一貫校の中学部の入学定員は大体60人程度とっております。そうしますと、450人ぐらいの子供たちが卒業したとしても、その1割強ぐらいの子供たちが入ってくる中学校ができると思います。これができるということになれば、ほかの中学校、全体的にどうするかということもあわせて考えないといけないだろうと思っていますが、一般的に全国の中高一貫校の場合は、その中の1割ぐらいの子供たちが行くということです。ある中学では全

員行くということはまずあり得ないわけですので、できるということになれば、ほかの中学との関係性についても当然いろいろ検討しないといけないと思っています。

○委員

浜田高校、浜田商業についてはすごく具体的な魅力化へのポイントが示されたと思うのですが、浜田水産については受け入れ体制ということで、浜田水産自体の魅力というか、魅力化というか、行きたくなる学校へのプランというか、何かそういうのがありますか。

○久保田市長

浜田水産高校には、海洋技術科と食品流通科の2つの科がございます。海洋技術科というのは、簡単に言えば、船に乗られる方を養成するということ、それから食品流通科というのは食品製造であったり、あるいは食品の販売だったり、こういったことを担う子供たちを育てるという学校になっております。新たな学科をとというのはいろいろな議論がありまして、全国の水産高校を見ますと、調理師を養成するような、調理の授業をやっている学校もあるように聞いております。それから、海洋関係の船乗りさんだけではなくて、海洋関係のもっと技術的なこともやっている学校もございます。ただ、これにつきましては、教員の確保であるとか、あるいは設備であるとか、いろいろなことがありますので、水産高校をさらに魅力化、あるいは学科再編とか進学科とかいうことになると、しっかり議論させていただかないといけないと思っています。今の段階では、どこまでそこら辺を申し上げていいのかわからないので、まずは県外から入ってくる子供たちが増えておりますので、その体制整備に力点を置きたいと思っています。

ご質問のことをもう一回申し上げますと、もっと子供たちが入ってきたくするような水産関係のいろいろな学科だとか、あるいは加工したいろいろな料理だとか、そういうことも考えたいとは思っておりますが、私の立場でいろいろと言いますとなかなか難しいところがありますので、これぐらいにさせていただければと思います。

○委員

先ほどのご説明の中で、市外が180名ということですが、それは市外で県内ということなのか、県外にということなのか、あるいは、魅力化の話がございましたけれども、市外の学校というのはやはりそういう魅力化というところではかなり優れていて、そちらに流れるという意味なのか、そのあたりの感触はいかがでしょうか。

○久保田市長

優れているかどうかというのは私の立場では何とも言えませんが、多くは県内の市外、も

っと具体的に言いますと、東隣の江津市、それから西隣の益田市、ここにある高校に進学する子供たちが多いと思います。県外もありますが、数字的にはそんなに大きくないと思います。やはり市外の高校、私立の場合は県立高校より機動的にいろいろなことが打ち出しやすいと思うのですが、政策的な学校運営の面で、これに魅力を感じて行っている子供たちが多いのではないかと、こんな感じは持っております。

○肥後会長

先ほど浜田高校について、普通科を少しレベルアップしていく、そういう手法の一つとして中高一貫というお話もいただきました。一つ気になるのが、現在の理数科を受けようとする子供の数が非常に少ないという点についてどういう印象をお持ちか伺いたい。

○久保田市長

理数科をどうするかというのは私の立場では何とも申し上げにくいところでございますが、全くの私案ということでお聞きいただければと思います。高校の中高一貫校を浜田高校に設置するとなれば、理数科についても見直しが必要だろうと思います。理数科がなぜ定員割れをしているのか、全国的には、あるいは県内の他市の高校を見ると、理数科は結構人気なのです。残念ながら、今、理数科が減ってきている。理科教育への興味が少ないのか、あるいは理数科を出ても、例えばお医者さんになりたいとか、そういう夢が実現できないのか、何らかの理由があって理数科は定員割れが続いているところでございまして、やはり理数科を目指す子供たちというのは恐らくその後の大学、あるいはその先の大学院とか、そういうことも展望して受ける子供だろうと思うのですが、そこに魅力化といいましょうか、行きたいという気持ちが残念ながら少なくなっている、この原因についてはしっかりと捉まえておく必要があるだろうと思います。

意見陳述

1 浜田商工会議所 副会頭 樫山陽介氏

商工会議所の副会頭をやっています樫山でございます。私、こういう場に呼ばれて、いわゆる過去、教育問題に関して、そう大きなものを考えたことがございませんので、今回はこういう公聴会で、まず、私の考え方そのものをいろいろとお聞かせしたいと思います。

まず、本年の6月、久保田市長に浜田市県立高校のあり方検討会での検討結果を会長として報告させていただきました。この内容については、皆様、ご存じのとおり、また、先ほど久保田市長のほうからいろいろご説明がありました。それぞれの高校の魅力化について努力

して、それと、存続と統合については両方の意見でございます。

ただ、そのほかの委員の方からは、本当に浜田の中だけの議論でいいのか、少なくとも江津、浜田を入れた議論をしなければならないのではないか、そういう意見もございました。私は、これを会長として、葬ったというのはちょっと語弊がございますが、その意見は抑えさせていただきました。なぜかといえば、まず、答申が求められたことが浜田市の県立高校の在り方であること。それと、また、この検討会があったと同時期に、やはり江津市でも検討会があったこと。江津市での議論がやはり江津市内の議論であったこと。ここで、浜田のほうで江津を交えた議論をすると、どういう結果が出るのかわからない。そういうことで、そういう意見は、私は抑えさせていただきました。

ただ、現実問題、浜田と江津、石見地方ということですが、今回は浜田と江津に話を限らせていただきます。浜田市内の中学校の卒業生は浜田市内だけに行くのか、江津市内の場合はどうか。そういうことを考えますと、当然、いわゆる浜田から江津高校に行く生徒もいる。江津工業に行く生徒もいる。江津から浜田高校に来る生徒もいる。浜田商業、浜田水産に来る生徒もいる。そういう現実を考えたときに、最低この江津、浜田、これを1つの単位として高校の在り方を考えるほうがやはり順当ではないかと、今はこういう具合に思っております。

したがいまして、そういう観点からそれぞれ見ますと、特に普通高校、浜田高校と江津高校がございます。それから私立として智翠館がございます。特に県立高校の中で浜田高校と江津高校それぞれの特色がどれだけあるだろうか。確かに浜田市内での浜田高校、江津市内での江津高校、これはいわゆる市内唯一の普通科としての特色はございます。ただ、本当にこういう広域で競争するということになると、そういう特色が本当に示しているか、こういう疑問がございます。将来的にもし、もう少し生徒数が減って統合となったとき、統合せざるを得なくなったとき、ぜひ浜田、江津あわせての統合ということをご検討いただきたい。浜田市内だけではだめだと思えます。江津市内だけでもだめだと思えます。それが一つ、ここで話したかったことでございます。

職業科につきまして、特に工業高校、この地区の産業界、理系の人材、非常に求めています。それで、江津工業にも十分期待しております。ただし、近年、やはり企業の要望も多様化しておりまして、より高度な人材を求めているのも事実です。できればこの近くに、この地域に理系の大学ないしは工業高等専門学校が欲しいところです。ただ、それがすぐにはできとも思っておりません。江津にはほかにポリテクカレッジという立派な施設がございま

す。こういう立派な施設と、さらに工業高校、これを有機的に結びつける方法はないか。実質的にカリキュラムを統一して、工業専門学校、高等専門学校というような位置づけのコースができないか。これをぜひ要望したいと思っております。

次に、職業教育全般ということでございます。採用する側からいって一番困るのは、せっかく採った人間が短期間でやめてしまう。また、中には本当に就職するということの意味合いが曖昧なまま高校を卒業し、企業に入ってしまう。まるっきり自分がどういう立場にあるか、仕事をしてお金をもらって、それで独立した生活をしていくということが何であるかに対して、はっきりとした自分の意思を確立できてない生徒、そういうのが見受けられます。ですから、職業科においては、最初にやはり職業観というか、キャリア教育というか、そういうものをまず充実していただきたい。今、浜田商業においても50%近く、また、水産高校においても30%近くの生徒が進学をしております。もしこういう職業教育のもとで、自分の将来を自分で考えて進学するという道を選択するならば、これはまた素晴らしいことです。だから、やはり職業科である限りは、まず、そういう教育を充実させていただきたい。それができれば、それこそいわゆる職業科の存在意義、特色ということになるかと思えます。

<質疑>

○委員

普通科高校の在り方については、浜田高校と江津高校の差異化が不明確であるというお話でしたが、そもそも普通科高校の魅力化の内容を、多くは進学実績とか、そういうことで語られるのですが、それなのか、もっと違った形の普通科高校の魅力というものがあるのか、そのあたりについてはどのようにお考えでしょうか。

○檀山氏

難しいことはわかりません。そこまでの知見がないといえますか、はっきり言って、私にはわかりません。ただ、現在、なぜ生徒が向こうの高校を選ぶか、こっちの高校を選ぶか、それをもっと突き詰めて考える必要があると思います。

○委員

浜田市の県立高校のあり方検討会の会長をしておられたということで、もう少しどのような意見が出ていたのか詳しくお聞きしたいと思いました。あと、3校存続と再編やむを得ない、両論併記になったという、そのあたりの背景とか、もう少し詳しく教えていただけたらうれしく思います。

○樫山氏

委員が産業界の方とその他、PTAの会長さんとかがございまして、私が想像するに、PTAの会長さんというのは、PTAだけではなくてOB会も入っているのです。当然、そういうことで、まず存続の方向に軸足を置かれる。片や、産業界からは、ある程度の効率化はやむを得ない、こういうところがございまして、その辺のせめぎ合いといいますか、そういうことです。

2 浜田高校PTA 会長 久保田英治氏

浜田高校PTA会長を務めさせていただいております久保田と申します。先ほどもお話がありましたように、平成26年に浜田市の県立高校あり方検討会に、息子が中学校におりました関係で浜田市のPTA連合会の一員として出席をさせていただいて、いろいろ意見を言わせていただいた者でございます。また、浜高の卒業生で同窓会の理事もやっておりますし、あと、学校給食の関係の仕事をさせていただいておりますので、非常に教育機関とは切っても切れない立場にあります。仕事の関係で申し上げますと、私は平成5年に浜田に帰りまして、その当時、旧浜田市内の学校給食、私ども、牛乳を供給させていただいているのですが、7,000食ぐらいあったのですね、教職員さんも含めて。今、那賀郡も含めた新浜田市で4,400、4,500というところで、民間人としては、人口減少をひしひしと感じている立場にあるわけでございます。そういったことも踏まえまして、本日、意見を述べさせていただきたいと思っております。

統計にもございますように、平成30年以降の生徒数は、多少の増減はあるかもしれませんが、かなり減っていくということで、現在の、これは県立高校に限らず、小・中学校も現状のまま臨んでいくのは大変厳しいものがあるだろうと想像しています。ただ、単純に何校を何校に統廃合するというような数的な考え方で進めていくということは、やはり地域の実情も考えると非常に厳しい。特に今回の県立高校、浜田市、江津市も含めて5校ございますけれども、それぞれの、浜田高校と江津高校というのは先ほどもお話がありましたように普通高校ですので、進学が目的という高校ですから別としても、浜田商業高校、水産高校、そして江津工業高校というのは、設立当初からこの地域の産業に対して優秀な人材をたくさん供給し続けてきた、この地域の地場産業の発展にはなくてはならない存在の高等学校であると思っております。

しかしながら、この石見地域、人口減少、少子高齢化以外にも地場産業の衰退という非常

に厳しい現実がございます。浜田市は水産業、それから江津市は瓦工業、大手の電機メーカーあるいはケミカル工場の人員縮小とか撤退とかというような現実もございまして、大変経済的には厳しい現状でございます。また、そういった実業高校出身者を受け入れるキャパも減ってきているのが現実ではないかと思っています。その結果、せっかく地元の高校を卒業しても、地元の就職を求めてもなかなか厳しい。会社はあるが、求める業種、会社がないということもあって、ミスマッチングも生じているのではないかと私自身は感じております。また、景気がよくなると県外メーカーからの大量の募集があり、高校生はやはり一度は都会に出てみたいと思うでしょうから、そういう誘いがあると出ていってしまいたくなるのもわからなくもないのですが、昨今は、地元志向が強まっているというようなお話も聞いております。これはいろいろな経済上の問題もあるかと思っています。

先ほども委員さんのほうからもお話がありましたように、教育というのはやはり今ではなくて、10年、20年先を見据えた形で考えていかなければならないというのは、私も同感でございます。

先ほど申し上げました現在のこの石見地域の環境がなかなか厳しいものがあるというところで、島根県を初め、それぞれ浜田市、江津市、行政、あるいは産業界が一丸となって、この地域のさらなる発展、あるいは産業の再興について、本当に一生懸命ご尽力をいただいているところでございます。この努力が実った暁に、地元の高校生を採用したいと思ったときに、地元出身の、いわゆる工業高校だとか商業高校だとか、水産高校もそうですが、いないと非常に困ると思うのですね。せっかくの努力が水の泡になってしまうと私は思っています。そういった意味では、本当は現状維持が一番望ましいのと思うところなのですが、どう考えてもこれから先の少子化ということを考えると、なかなか現状維持は難しいというのは、改めて申し上げる必要もないと思います。

公立高校とはいえ、経費垂れ流しというわけにもいきませんので、ましてや充実した教育あるいは学校生活を子供たちに送っていただくということを考えましても、教員数の確保、専門性の確保、それから部活動の確保、選択制の確保を考えると、現状維持した場合、小規模校でもきめ細かい指導が可能というような意見もございますが、それが即学校の魅力化に、魅力の向上につながるのかというと、なかなか時間のかかるような話でございます。実は子供たちが高校生活において何を求めているか、私が独自に考えますと、やはり勉強の内容は当然ながら、部活動であるとか、体育祭、文化祭、球技大会、そういった学校でのいろいろな行事、それから一人でも多く友達をつくりたいというようなことを中学生は望んでいるの

ではないかと思います。先ほど来、益田市や江津市に浜田の子供が流れていくというのも、結局は部活動の影響が大きいと思っています。負のスパイラルではないのですが、子供たちが減ってくると部活動が弱体化していく、弱体化してくると子供はどんどん入ってこなくなるといような状況もあると思っています。そういうことで、多くの友人と出会うチャンス、多くの友達と競い合うチャンスというのが、今の浜田、江津においては、東部に比べると少し劣るのではないかというのが私の実感でございます。人数ありきの話ばかりをしています、それが悲しいかな現実かなと私は思います。

ただ、人口が減っているから仕方がないではなく、先ほど来、お話がありますように、選ばれる学校にしなければならないというのは非常に重要なことである、魅力化もそうなのでしょう。そうすると、私が思ったのは、こうやって大人が議論するのも大変結構なのですが、今の中学生が何を求めているのか、あるいは高校の現場の先生方が、どういった高校をつくっていききたい、どういう教育を子供たちにしたいと思っておられるのかという意見を、僕は聞いてみたい。我々のような大人目線でこういうものがあるべきではないかということも大切なのですが、実際に子供たちがこれからどんな勉強をしていききたいのかすごく聞いてみたい。なかなか、まだ中学生の段階では先が見えないかもしれないが、そうすることによって逆に子供たちが夢や目標を考えるようなきっかけにもなるともなっていると思っています。

いろいろと取りとめのないお話をさせていただきましたが、理想論といえば理想論なのですが、現実には浜田と江津というのは、商圈も同じ、たまたま平成の大合併では合併ということにはなりませんでした、実際に子供たちも行き来しているわけでございます。そういうことを考えますと、やはり江津、浜田というのは、一つのエリアとして考えるべきではないか、もうそういう時期に来ていると思っています。実際の高校が幾つ、普通科が幾つという具体的なお話はいたしません、やはりこの石見部のいろんな意味での衰退ということを考えますと、この浜田、江津、地理的にも中心に位置しておりますので、将来的には、この浜田、江津の学校の再編を機に、学区制を全て廃止する、石見地域全体から、あるいは県下から、あるいは県外も含めて全廃をしていただいて、広い地域から優秀な人材を、あるいは目標を持った人材が江津に集まってくるような、そういう教育機関を設置するということも必要かと思っています。そうすることによって、学校の数はいったしたら減るかもしれませんが、施設設備の充実、あるいは先生方の専門性の向上、あるいは部活動の多様化も考えますと、今ここで頑張っておられる私立学校と十分に戦っていける県立高校ができるのではないかと。また、そうしないと、もう県立高校要らないよという中学生が出てくるのではな

いかと思いますので、そういった方向も考えていただければと思います。

最後に、数ありき、どうしてもネガティブな発想になりがちですが、人数が減ってくることはわかっているので、今から準備をして、魅力化、魅力のある高校を早目に立ち上げて競争力を高めていくというポジティブな発想で、石見地区の高校教育を考えていただければと思います。

<質疑>

○委員

学区制の廃止というご意見、なるほどと思いながら聞かせていただきました。実際に商売に携わっていて、子供たちの地元志向、就職の実態、それから受け入れの実態、人数の点など、そういった実態、最近の様子をもし具体的にわかるようでしたら。

○久保田氏

私の会社では、基本的には新卒採用はしていない。というのは、世間を勉強して帰ってきてもらった方に仕事をしていただきたいという思いもありますので。ただ、過去には新卒を採用したこともございます。やはり半年ぐらいで出ていきました。理由を聞きますと、半年か1年働いて、お金をためたら大阪へ行きたかったのですとか、結構そういう高校生がいらっしゃるような気がします。あと、この地域も、よくハローワークからも募集の依頼が来るのですが、受け皿的にはどうなのか、やはり増えていないような気がします、全体的に。先ほど江津の例もお話ししたように、江津市も何百人単位の手会社が消えていますので、そういったことを考えますと、やはり子供さんたちが地元志向に変わってきている中で、受け皿は必要。そういった意味では我々のような世代がしっかり産業を興していかなければという責任はあると思います。

○委員

未来志向のお話で、夢のある話で感動いたしました。産業再興というお言葉を使われましたが、これは既存のものを閉じるわけではないが、新たな枠組みなり、業種を興していこうという意味だと思います。浜田、江津地区を見たときに、その未来志向の新しい産業を想定して、そこからバックキャスト型で高校の学科の内容等を考えたときに、久保田市長さんが、商業高校の場合、情報系、デザインとかアニメという具体的なお話がありましたが、何かこういうものがあったらよいのではないかと、未来志向で考えたときに必要な学科という、そういうイメージ、何かお持ちでしょうか。

○久保田氏

具体的にはないですが、浜田は特に水産業もあり農業もあり、そして観光も、ゴルフ場であつたり、スキー場であつたり、ある意味そろっている地域ではあると思うので、そういった産業も含めて、先ほどアニメの話も出ましたが、何も東京や大阪にいたなくてもできるような仕事というのは、どんどんこれから増えていくでしょう。高齢化も進んでいくでしょうし、まだ浜田にない産業というのは幾らでもあるのではないかなと思うので、そういうことを考える上でも、高校生にもうちょっとそういう勉強をしていただければ、すごくありがたい。私達も、もう古い考え方になっていますので、新しい考え方がどんどんこの地域で発案されるような、そういう人づくりをしていければいいかと思います。

○委員

本当に夢が広がる、ちょっと明るい気持ちでお話を聞かせていただいたのですが、私たちの地元のことを考えたら、次の産業とか、次の社会のことをイメージして話をして、そこばかり見ていたのですが、お話を聞きながら、今の高校に通う子供たち、10年後、高校に通う子供たちが充実した学校生活、確かにそこが第一義であつたということを改めて教えていただきました。いろいろな視点をお持ちで、部活動であるとか、学校生活が豊かになる、出会って競い合う、そういったことが大事だということを言っていて、だから、そこを充実することが、次の時点で子供たちが選択できるのだということを教えていただきました。子供たちにとって高校生活が、それぞれの学科で専門性も高めながら、魅力化であるとか競争力を高め合うために、例えばいろいろなアイデアをお持ちではないかと、例えばこんなことができれば、子供たちの生活が充実する、部活動なんかも含めて、今の実態も子供さんの姿を踏まえて、お持ちでしたらお聞かせいただければ。

○久保田氏

私も四六時中教育に携わっているものではないので。ただ、私が浜田高校に通っていたころは、9クラス・9クラス・8クラスの26クラス、1,000人規模の学校でした。私は理数科にいたのですが、40名中8名が医学部へ進学しました。今はわかりません。当時は浜田高校にいる友達の中でも、優秀な人たちです。優秀な人たちはほかに出たとしても地元で貢献できる何かをしようという意識があつたのではないかなという気はします。同級生も結構先生になって帰ってきている人もいます。そういった意味では、ある程度学校内で切磋琢磨できる状況にないと、社会に出てから完全に壊れてしまうというタイプが増えます。やはり壊れる人間が多いというのは、若いころに切磋琢磨が足りない部分もあると思います。私、体

育会系なので、ツーと言ったらカーと返ってくるぐらいでないと、これからの世の中生き残っていけないのではないかと考えていますので、そういった意味では、小規模校がどうのこうのと言うわけではないが、害のない競争ではないですか、学校の中である競争って。そういった意味で、学校の中である程度競争をできるような環境をつくってやるというのも大人の責任と思っています。家庭で叱ることが少なくなっているのも、学校でしっかり叱られて、しっかり檄を飛ばされて、頑張るという意識を植えるには、ある程度の規模の学校が必要だと思います。

3 浜田商業高校PTA 元会長 田中和実氏

浜田商業高校の元PTA会長の田中です。昨年の3月までPTA会長をやっておりまして、浜田市のあり方検討会にも参加させていただきました。その中では、PTA側にいましたので、3校存続をかなり訴えていましたが、一つには、この浜田市のまちづくりという観点もありまして、やっぱり3校あって、これが充実できれば一番いいのではないかとこの点で言っております。それと、あと私の子供ですが、この春、一番下の3番目が浜田商業高校を卒業しました。上から、今は25歳、21、19と、3人とも浜田商業高校を卒業させていただきました。私自身はお隣の江津工業高校の建築科に在籍して、専門高校には思いが正直あります。

これから私の意見言わせていただきますが、私自身、現実的に考えてみて、今回この公聴会に際しまして、石見地域全体ということで工業教育、商業教育、普通科教育の核というところを考えてお話をさせていただきます。

まず、工業教育ですが、江津市に江津工業高校と、益田市に益田翔陽高校がありまして、浜田にはありませんので、私自身はJRで当時江津工業に通っていました。江津市の地域拠点工業団地の第2期の造成が決まっておりますので、益田市にあります石見臨空ファクトリーパーク、この石見部にも、誘致企業があるのですが、この誘致案内に対しましては、企業も地元の新卒を採用したいという気持ちがあると思います。そういった意味では、地元の専門高校があつてこそ、誘致なり、いろいろな企業にも案内ができるのではないかと考えております。

また、県西部で唯一、江津工業高校の建築科、私が出た科ですが、これは石見部全体の建築土木業界を支えている科ではないかと思っています。私のときも、遠くは美都町とか、益田市、鹿足郡から、通いはできませんので、寮とか下宿とかして来ておられました。この春から、江津工業高校がコース制をとられました。最初はちょっとびっくりしたのですが、ここまで

やるかと思ったのですが、よく考えてみると、普通教科とか体育とか、そういったものはみんなやって、コースに別れて、電気、ロボット、機械、建築を勉強する、これもありかなと正直思っております。定員枠は江津工業高校80名ですが、建築は20名しかいないにしても、そういった建築の教育ができるということは、地元の建設会社への就職ができて、それが力になってくれるのではないかと思っております。コース制ができるのであれば、益田翔陽高校には電気、電子機械、あと、農業と総合学科があり、益田にもそういった教育のコースができていいのではないかと正直思っております。益田もやはり同じように建築土木業界の方も人材を探していると思います。建築の先生は知っているが、機械、電気の先生は全くわからないという科の間に壁があるのですが、こういったコース制ができたことによって、若干でもこういったものが取れて、また石見部の地元企業への力になるのではないかと思っております。

それと、商業教育ですが、浜田商業高校に商業科と情報処理科がありまして、私の一番上の25歳にこしなった長男のときは4クラスありました。商業科が2つ、情報処理、国際ビジネス。長年商業高校に行ってわかったのですが、情報処理科が定員割れを起こしたのです。学校評価委員会に出ても、OBの方とか地元の方から、何で情報処理科はいつも定員が埋まらないのだと。昔はかなり優秀な生徒が行っていたところだよという話もあったのですが、25歳の長男が入った次の年には、国際ビジネスがなくなって3クラスになったのですが、そのときもやはり情報処理が定員割れなのです。21歳の次男が入ったときには、商業科に入ったのですが、1.15倍ぐらいの倍率がありました。瞬く間に今の高校3年生が2クラスの生徒になりました。このときは80名募集をして、実際入ったのが多分66名ですか、浜田商業80になったから難しいぞというところから、こういった定員割れを起こしたと思うのですが、今はくくり募集が始まっております。専門性を見るときに、工業高校の場合はわかりやすいと思うのですよ、車のことを勉強したいとか、電気を勉強したいとか。商業高校の場合、ちょっとわかりにくい部分があるのか、これをくくり募集とした結果、今は2年連続、定員を満たしているというところですよ。

それと、現在、IT分野で活躍する人材とかの育成が求められる中で、島根県も、この間新聞で出ておりましたが、第10次職業能力開発計画案のまとめの中にもIT分野の人材育成の推進が盛り込まれ、また次期学習指導要領で、小・中・高校にプログラミング教育の導入が決まりました。今、県東部、県西部にもIT企業が進出する中で、浜田商業高校も県西部に進出したIT企業、また今後進出する企業に対して、ITの技術者の養成高校としての位

置づけがあるのではないかと考えております。特に浜田商業高校の情報処理科は、以前から行われているプログラミング教育を中心に据え、さらに課題解決力育成プログラムを用いて、即戦力として活躍できるＩＴ人材の育成を行う専門高校として、受け皿になっているのではないかと考えております。浜田、江津という地域が一つと考えているのですが、この商業高校は、県西部では唯一の商業高校です。浜田圏域だけの高校ではなく、県西部の拠点校みたいな形をとる必要性があるのではないかと私自身は考えております。

あと普通科のほうですが、先ほど久保田さんも言われましたが、学区制です。私も考えておりました。それと冒頭の市長の挨拶の中で、理数科が定員割れしているという話がありましたが、松江地区の定員数は県立高校が1,520ありまして、その中で理数科は80名です。出雲は1,240人の定員数に対して、理数科1クラス。浜田、江津地区は定員数が560人です。生徒が東部に比べて少ない中で、理数科1クラス40名というのはどうかという思いがあります。益田にも、益田高校があり理数科があります。この圏域、浜田市、江津市、益田市だけで学校の定員数が920でして、その中で理数科が80もある。先ほど専門高校で出たコース制、そういったものも学校の科の再編の中で必要があるのではないかと考えております。

私は、最初この会議の参加依頼が来たときに、子供も全員高校を出まして、無責任な発言ができないと思って、最初正直お断りしたところがありました。商業高校でＰＴＡ会長をやらせていただいて、また県立高校のあり方検討会にも呼んでいただきまして、その責任があると思い、きょう来たのですが、一つは今から高校進学を控える家庭といいますか、これからの方の意見というのが一番大事ではないかと思えます。中学生が今、高校に行くためにどう考えているか、本当に勉強したくて行く子も当然いると思うのですが、いろいろ話を聞く中で、どこどこに行って部活動をやりたい、その後についてきたのが、その高校という子もいます。その辺の意見をまとめるのは難しいと思うのですが、やはりそこが一番大事ではないかと考えております。

あとは、やはりこの浜田の昨年の459名の卒業生に対して、市内273名しかいないのですが、県立高校であれば当然ＪＲだのバスだのを使って隣の市に行かないといけないのですが、私学は経営努力されていまして、バスが走っているのです。このバスも停留所も、違うなと思ったのは、浜田でも大規模な団地とかに来ているのです、朝早く、それもちょっと駅から遠いところ。やはりそういった戦略を持っていますから、そこから乗って浜田駅に一旦来て、東に走る、西に走るという、やはり私学は企業ですから、そういった経営戦略が見えているのが現状で、そこに生徒を全部持っていかれているのではないかと考えております。

取りとめのない話になりました。やはり商業高校のPTAにいましたので、ここの辺が強くなりまして申しわけありませんが、私の意見とさせていただきます。

<質疑>

○委員

一つ、部活の話、最後にお話しされたと思うのですが、商業高校、たしか石見神楽の部活があると新聞で拝見しているのですが、もしその状況がわかれば教えていただきたい。あと、田中さんご自身も通学して江津工業に通われたという、先ほど私学のことも含め、通学のことをおっしゃっていたと思うのですが、今後どうなるかは置いといて、仮に再編を考えた場合、通学の問題はすごく大きなことと思うのですが、こういうことに気をつけて欲しいとか、こういう視点を大事にとか、もし検討して欲しいというようなことがあれば、ぜひ教えていただきたいと思います。

○田中氏

まず、郷土芸能部は、私が知っている限りでは、今3年生になったと思うのですが、匹見町から生徒が来ております。ただ、寮が浜田商業にはありませんので、この3月に浜田商業生が入った下宿があるのですが、そこも全員出てしまったら、下宿をやめようと思っておられます。新規を受け入れていないのです。匹見町から来た子は、多分親戚とかを頼っているのではないかと思います。郷土芸能部に神奈川か東京から1名来ておりますが、その子は多分、ご両親のどちらかが浜田出身ということで来られているというのが1名います。あと、小学校を浜田市で過ごして、ご両親の転勤で安来市に行かれた生徒が、浜田商業高校で、当時のスポーツ少年団の子供たちと一緒に野球をやりたいということで、1人安来からこの春来ております。ただ、下宿がないということで、私たちも当時のOB会長を含めて、みんなでアパートなどを探したのですが、最終的には江津で下宿をしているみたいです。そのような部活動で来ている子がいます。

○委員

郷土芸能部を中心に県内外から生徒が集まる状況があるが、下宿とかの状況でなかなか難しいというようなことでしょうか。

○田中氏

そうですね。学校の寮だと、多分3万円台で入れるのではないかと思います。下宿とか旅館とかも聞くのですが、とてもその金額では受け入れできないということで、来られて

も結局、寮がないので自分で探すという形になっております。

あと通学に関しては、私自身が通っていた頃はＪＲしかない、当然、江津の私学の生徒も、ＪＲに乗っていました。学校のバスが走ることはありませんでしたので、その辺はわかりません。

○委員

費用負担というのは、やはりご家庭にとっては大きなものになるわけですね。

○田中氏

通学の費用負担は大きくなると思います。昨年、浜田市に市内県立高校のＰＴＡ会長３人で、要望といたしますか、お願いに参りました。今、浜田市では、市内在住者が浜田市内の県立高校に通う場合、通学費用の上限を設けて、15,000円以上かかるのであれば、超えた額については浜田市が負担しています。浜田市のお力で楽になっているのではないかと考えております。

4 浜田市ＰＴＡ連合会 副会長 野上智恵子氏

浜田市ＰＴＡ連合会副会長の野上智恵子です。きょうは、連合会の役員としてではなく、数年後に高校進学を控えた子供を持つ母親として、私個人の意見を述べさせていただきたいので、よろしくお願いいたします。

自己紹介がてらですが、現在小学校５年生、３年生、保育園の年長という３人を育てている、目下、平成31年度あたりに高校生を持つであろう親として、今住んでおります。私自身は浜田市出身でもなく、浜田市の高校を出たわけでもないのですが、本当にここに呼ばれて何か意見してくださいと言われても、先ほど述べられた４人の方のような大層なことも言われませんし、何を言っているのだという感じで意見をさせていただくことになるかと思いますが、こんな夢を持っている人もいるよという形で聞いていただければいいなと思います。

私は浜田市の県立高校の３校存続を願います。浜田市に居住するに当たり、子供たちに課せられる最初の進路選択は高校進学であると推測されます。その際、市内における公立高校の選択肢が３つなのか２つなのかというのは大きく違うのではないのでしょうか。将来進学を考えている生徒は浜田高校を、地元就職や専門学校等への進学を考えている生徒は浜田商業高校、水産業や水産加工業という石見地域ならではの教育に関心のある生徒は浜田水産高校を選択していくと考えられます。それでも市内３校では自分の進路に合う高校がなく、市外の高校や県外の高校へ進学している生徒も少なくありません。自分の興味や学力によって自

由に選び得るはずの進路選択で、3校でも網羅できていない浜田市の現状を踏まえましても、3校の存続は必要不可欠だと思います。しかしながら、3校を残して欲しいと願う反面、先ほども議論されておりました定員割れが起きているのが現実です。少子化の影響も少なからず定員割れの原因でしょうが、県外を含む近隣の公立高校や私立高校への進学が増加も原因の一つではないでしょうか。それは、生徒たちが将来どのような職業につきたいのか、自分たちが力を入れて打ち込みたいことは何なのかということを基準に高校を選択した結果だと思われる。このことから、私なりに3校へ期待する教育を考えてまいりましたので、意見をさせていただきます。

まず、浜田商業高校と浜田水産高校の大学進学を見据えた教育です。高校卒業後の進路状況を拝見させていただきますと、半数近くの生徒が大学や短期大学、専門学校等へ進学しているようです。浜田高校だけではなく、ほかの2校を選んだとしても、大学等への進学サポートの学科があることは魅力の一つになるのではないかと考えます。

次に、新しく事業を起こすことなのですが、地元での起業を見据えた教育です。ビジネスチャンスが宝庫であると言われるこういった田舎で、そうした人材育成のための教育がなされてないことを非常に残念に思います。地元就職に人数の限りがある以上、地元に戻り就職するためには新たなビジネスを立ち上げる能力が必要です。起業するに当たって必要な技能を習得し、模擬的に会社をつくって経営するという学科があると、早いうちから子供たちが具体的なイメージができるのではないかと思います。

それから、地域の特色を生かした農業、伝統技術、伝統芸能を盛り込んだ教育です。例えばお米づくりや野菜づくり、あと梨、ピオーネ、柿といった果物も有名なのですが、それらを生産から加工、販売まで行う学科の設置、あと石見神楽、神楽面作成や衣装づくりなど、紙すきも市内ではいろいろとございます。こういったことを校外学習や部活動に織りまぜて、郷土愛を育み継承することにも力を入れて欲しいと願います。

そして、普通高校の学力向上を促進する教育です。現在、中高一貫教育といったことが議論され始めていますが、私も学力向上のためにはそういう教育もあっていいのではないかと思います。しかし、浜田高校と併設の中学校ができてしまうと、生徒が一極集中してしまい、旧郡部の中学校の存続が危ぶまれ、人口が減少し、住んでいる地域での子供の学力格差が生じるのではないかと懸念しています。ここは私の無理難題と承知の上での発言になるのですが、浜田高校の姉妹校といったような形で、旧郡部にある中学校に併設型の中高一貫教育校を設置して、6年間伸び伸びと学習できる体制があるといいと個人的に思います。

私自身は3校の存続を望んでおりますが、この場に立つに当たり、いろいろな方の考え方も聞いてまいりました。私と同じく存続を願う方もいらっしゃる中、浜田高校と浜田商業高校を統合することを願っている方もいらっしゃいます。その理由として、浜田商業高校の部活動の人数が不足していること、体育祭や文化祭などの学校行事の運営が困難であることを上げられました。また、弥栄に住んでおられる方からは、弥栄から浜田市内の高校への通学が大変難しいという話も伺いました。部活動をしたい生徒は下宿を余儀なくされる、寄宿舎があるのは浜田高校と水産高校で、浜田商業高校を希望したくても希望できないという状況である。もし浜田高校と商業高校が統合すれば商業科選択ができるので、ぜひ統合してほしいという話でした。

私は2校を統合したほうがよいのではないかという方の意見を聞き、なぜそう思われるのかを考えることで、やはり3校存続をより強く願うようになりました。3校の教育をさらに魅力あるものにし、市内どこからでも通学可能、もしくは寄宿が可能となるよう整備してほしいです。学校があることによって、お店や病院などが必要となり、付随して学校周辺は豊かになります。1校でも高校が減ることで寂れていく地域が増加し、子育て世代が住みにくくなります。子育て世代が住みにくいまちに人が集まると思いますか。学校があることでまちは元気になります。元気なまちで育った子供たちには、またそのまちに帰ろうという郷土愛がきっと芽生えるはずです。高校の在り方を考えることは、高校だけの問題ではなく、今後の浜田の在り方も左右することになると思います。浜田の未来を担う子供たちのためにも、より多くの可能性を見出せるよう、3校それぞれの特色を生かした学校づくりをお願いいたします。

<質疑>

○委員

起業力を高めるためのアントレプレナーシップ教育のお話ありがとうございましたけども、イメージとしては、例えば浜田の3校でいうと、どこにそういった教育があればいいとお思いでしょうか。

○野上氏

願わくは、3校ともあるほうが良いと思っています。起業するに当たって、いろいろな人材も必要で、学力が高い子はそれなりの、そういったところでの視野があるだろうし、商業科、水産高校という実業高校においても、実際会社を立ち上げるということは、自分たちが

やっていることに必ず絡んでくることだと思うのです。本当を言いますと、3校で何か連携して、3校の子供たちで何か考えて新しいビジネスを立ち上げるような取り組みができるといいのではないかと思います。3つの学科をつくることになるので、何十人集めるのだという話になりますが、しかし、少ないからとか、人が散ってしまうからということばかりを考えるのではなく、よりとどめるといえるか、集めるという方向で考えれば、私は3校ともにあることを望みます。

○委員

中1から4歳までといいますと、小・中のPTAが一番当事者になるわけですが、先ほどご自身は周りの意見を聞かれたということですが、あり方検討会の後、市P連であったり、その後の、各学校でそういう意見交換であったり、情報交換などをされたかお伺いしたいのが1点。どうしてもこういうあり方検討会ですと、各学校の会長さんなど、それぞれが人生経験を積み重ねた方が出てきて意見交換するわけですが、その年代になりますと当事者が私よりも10以上離れた方になるのです。ふだん保護者と話をすると10違えばかなり考え方も違うのですが、そういった若い保護者の方はどう考えられているのか、もし聞いておられれば教えたいと思います。

○野上氏

まず、市のPTA連合会で話を聞いたかということですが、それぞれの役員と話をする機会があったときには話をしておりますが、3校存続して欲しいというのは、皆さんほとんどが浜田のOBの方々なので、存続はして欲しい、母校愛もあるのでという話は出ております。子供たちのためにも、やはり3校があることが望ましいのではないかという意見のほうが多かったのですが、皆さん、私がここで意見すると、洗脳してしまうのではないかという、そちらを気にされて、逆に市のPTA連合会の役員とはそこまでの話をしておりません。

私より若い世代の親の話になりますが、そこまでの話はできておらず、でも、こういった場に立たせてもらうということで、数限りはあったと思いますが、先ほど言わせていただいた自分の意見の中に盛り込んでいるつもりで、先ほど言った弥栄の方の下宿などの話は、全然自分も知らないことだったので、ぜひここで言わせて欲しいということで言わせていただきました。よければ本当に浜田市内のPTA連合会を通じて、単独の小学校であり、中学校の保護者の方からの意見を吸い上げるのが、本当は一番いいのではないかと私も思います。

○委員

私は西部で津和野から参りました。江津、浜田と同じように、津和野高校もせっぱ詰まっ

たというか、子供たちが少なくなったという同じ現象があって、町内でもいろいろな活動をしている方がいらっしやいまして、魅力化に努めています。

今お話を聞いた中で、お子様たちが5年生、3年生、年長さんということで、お母さんが子供たちにどういうことで、例えば自分は将来どうなりたいのか、世代が変わってどのように変わってきているのか、お母さんたちが高校について、こういう検討委員会で考えながら、子供たちに何か話したことがあるのか、どんなことを話したのか聞いてみたい、子供目線のところを聞きたいと思ひましてご質問させていただきます。

○野上氏

きちんとわかっているのが5年生、3年生ですが、5年生のお姉ちゃんに聞いたところ、会社をつくったりとか、何かを考えたり、何か起こすということがとても好きなので、こういう科があったらどうかという話を実際しました。いいね、それお友達とやれるのと言ったら、そうね、そういう科があったら友達とできるねと言ったら、いいな、そういうところがあったら行ってみたいなと言ってくれたので、私もこれをぜひ意見に入れようと思いました。真ん中の子は、まだ、うーんと言いながらも好きなことをやりたいから、部活もやりたいし、今なりたいものがあるから、それは大学行かないといけないねと言いながらも、大学行くなら、浜高かなという話をすると、浜高じゃないと大学行けないのかなという話になりまして、そうだね、では、商業高校に行っても、水産高校に行っても、好きな分野を勉強して、それからさらに大学に進学するということが、前もってわかっていると、どこの高校を選んでも大学に行くことができるよねという話から、商業高校と水産高校からも大学に行くというアプローチがあるといいということで、上げさせてもらいました。一番下の子は、何を聞いても、まだお花屋さんとかケーキ屋さんという感じなのですが、それをするに当たっても、やはり3校あると選択肢が広がるかと、そういった話は家でもしました。

○委員

今の子供たちがお母さんとどういう話をしているのか、とても知りたくて、私たちの世代からみると、小さい、中学生のことも考えるのですが、またその下の世代、今のその子供たちが大きくなって、どの高校に行きたいのか、自分の夢はどうなのかということをお母さんと一緒にそうやって話していけたら、子供たちの視野が広がり、また地域の人たちの中に加わることで、またその人たちから影響を受けて、こういう人になりたい、そして、そこに高校がある、その夢を広げていきたい、私たちもそこで努力をさせていろいろ考えていきたいと夢がどんどん広がっていく。子供たちとそういうお話をさせていただいたら、すごくうれし

いです。また、そういうお母さん方が増えることをとても望みます。

5 意見交換

○委員

きょうは随分と高校の魅力化、活性化にかかわる話をさせていただきました。私も若干はかかわっているのですが、高校の魅力化、活性化といったら、やはり今いる高校生が自分の学校を誇りに思えるように生徒自身が動くべきだと思うし、それから、教職員が、自分の学校として動き出すべきではないかという気がしています。今どちらかというと高校の魅力化、活性化は市町村がどうバックアップしているか、どう協力しているか、どう財政的な支援をしているかというようなところに行っていて、あまり、自分がここをもっと誇らしい学校にするとか、魅力的な学校にするとか、教職員がもっとこんなふうにしたいというような夢を広げるとか、何かそういうことが必要ではないかと思っているのですが、かかわってこられた中で、ここの学校の生徒たちはこんなことをやっている、教職員はこんなことをやっているという事例があったら紹介していただけるとありがたいと思います。

○田中氏

浜田商業高校のことしかわからないのですが、昨年創立50周年行事をやったのですが、その前の年から、過去にやっていた浜商デパートを復活させました。1回目のときはものすごく来場者があり、ただ単に物を売ることだけではなく、能動性主体性というところで、リーダー教育も入っています。浜商デパートをやるに当たり、会社組織にしまして、代表取締役を1人置きました。そういった教育というのは、先生方のほうが一番大変なのではないかと思います。先生はふだんのことをやりながら、また別にこういった、多分、松江商業も出雲商業もみんなやっていると思うのですが、結構先生方も先頭に立ってやっておられます。

○委員

浜田商業は挨拶が素晴らしいということをほかの会で聞いたことがあります。生徒の挨拶が、魅力化、活性化のためということではないと思うのですが。

○田中氏

挨拶は、私も自慢できるものだと思っています。大体学校に行きますと、立ちどまって挨拶するというのは、過去の先生方の指導が今につながってきているものだと思っています。確かに挨拶は素晴らしいと思っています。

○委員

お手元に浜田高校のパンフレットがございますが、とかく進学校の場合は、どこの大学に何人というところが注目されがちなのですが、普通科の高校の、例えば浜田高校の場合は、H I R A K Uというテーマで人間力養成を目指し、地域企業の協力によるケーススタディー、企業訪問、大学による講演等々、キャリア教育に関するさまざまな取り組みを行っているということで、地域に密着した形の取り組みを展開しておられるのですが、こういったことは皆さんには伝わっていますでしょうか。

○肥後会長

今、委員がおっしゃっているのは、学校はかなりいろいろな工夫した取り組みをしているが、その特色について、将来、ここに行ってみようというような気持ちになるところにまで、ちゃんと届けられる発信力を持っているだろうかというような、そういう問いかけだと思いますが。市民の皆さんはもちろんですが、保護者の方々もおられるわけですから、小学校、中学校の保護者の方に届くことが大事なことです。そのあたり、私どもも考えなければいけないことだと。

○久保田氏

浜田高校は今、ホームページがものすごく充実しております。ホームページを見ると大概のことがわかるような、びっくりしたのですが、私もP T A会長になって久しぶりに母校のホームページを見たのですが、ここまでやるかというくらいさまざまな情報が網羅されている。インターネットが見られる環境にあれば、浜田高校が今何をやっているかというのはおわかりいただけるのではないかと。ただ、それをまた別の形で、こんなことをやっていますという情報発信について、まだまだ手間もかかりますし時間もかかるでしょうし、外に出ていてどうのこうのというところまでは、ないのかなという気はいたします。

浜田高校は、体育祭が、分団対抗といいまして、地区ごとに4つに分かれているのです。学年ごとに色分けするとか、学科ごとに分けるとかではなくて、住んでいる地域、出身地域に分かれて、浜田東部は東分団、中心部は北分団と南分団、浜田川を境にして、西のほうは三隅に向かって西分団。入学すると3年間ずっと同じ分団で、同じ色で、その伝統を引き継いでいる。各分団プライドを持っておりまして、私もずっと南分団だったのですが、今になっても南分団のふがいなさには腹立たしいものを感じているのですが、ことはP T A会長だったので、前へ出て万歳をさせていただきましたが、南分団頑張れと思わず言ってしまったぐらい思い入れは強いです。そういうつながりが、間接的に地域とのつながりになると思っています。

○委員

先ほどのお話の中に、学区制を廃止してはというお話もありましたが、その制限についてどのようにお考えなのか、制限があったほうがいいのか、そのあたりの感覚をもう少し知りたい。

○樫山氏

反対に、なぜ制限があるかというのがよくわからない。

○肥後会長

地元からすればということですね。

○樫山氏

現実問題として、先ほど話に出ているように、市外の私学に大分既に流れてる、そういうことを抜きにして、県立高校だけ、制限を課すことにどれだけの意味があるのか、疑問点を持ちます。

○委員

私は隠岐の島から来ております。隠岐水産高校に息子も通いまして、いろいろな経験をさせてもらいました。魅力化という意味でも、地域に出て行って、非常におもしろい教育活動をしていらっしゃって、島の基幹産業を支えるという気合いもあって、なおかつ、島の人たちの高校への思いも強くて、いろいろな意味で島の中心にある、隠岐高校ももちろんですが、あります。ただ、やはり水産業を支えていかななくてはいけないという実態の中で、2年ぐらい前でしたか、水産高校自体を減らしていくという流れがあるようなニュースもあって、なおかつ島根には2校、なかなか県内に2校水産高校を持っている県は少ないということで、いろいろと島でも話題になりました。どう存続していくのか、あるいはほかの方向性があるのかということも、いろいろなところで話をされているように思います。浜田の場合は、やはり水産都市ということで、水産高校の担う意味合いとか、存在意義というものも大きいだろうと思いながら、きょう、そこら辺のことも聞いてみたいと思いながら来た次第です。かわっていらっしゃる高校が違うように思いますが、水産高校の取り組みとか魅力化という意味合いでの活動とか、また、市民の方たちの水産高校への思いとか、そういうところがあれば、お聞きしたいと思いました。

○樫山氏

浜田市の議論の中で、いわゆる水産高校に関しては、やはり水産という観点だけではなくて、いわゆる海洋という観点で拡充して欲しい。それから、さらに水産大学とか、そういう

方面へ進学する、そういうことも視野に入れたことをやって欲しいという意見がございました。それと、基本的に浜田市の検討会の場合、何が根底にあったかという、浜田高校と浜田商業をどうするかという議論でございまして、水産高校に関しては、当然存立するものというような前提の意見でございました。

教育監あいさつ

本日は大変お忙しい中、浜田市長久保田様、そして地元から4名の皆様お出かけいただきまして、それぞれ思いのこもった貴重なご意見を拝聴させていただきました。ありがとうございました。

また、委員の皆様方におかれましては、県内各地からお集まりいただきまして、5名の皆様方の意見を拝聴し、そしてまたいろいろな質問をしていただいたこと感謝しております。

冒頭の肥後会長のご挨拶にもありましたように、こうして地元の皆様方から拝聴させていただいた意見を踏まえていろいろと考えることは、平成31年度からの未来の島根県の教育の魅力化にどうつながるか、そういうような観点で、今こうして浜田の、後ほど、江津のほうでも意見を拝聴しますけれども、次期の再編計画に向けたリーディングスタディーという位置づけで我々は今、仕事をさせていただいている次第でございます。時間が限られておりまして、まだまだ述べたいご意見等あったかと思えます。また今後必要がありましたら、事務局のほうにご意見をいただけたらと思っております。本日は大変ありがとうございました。また今後ともよろしくお願いいたします。